

教職員の資質能力向上に係る特配（CT 特配）活用推進事業 報告書

邑楽町立邑楽南中学校

1 取組の概要

本校では、教職経験 8 年目の教員を CT 特配（持ち時数 14 時間）とし、校内研修部会内の CT 担当とした。このことで、研修主任と連携しながら、校内研修と教職員の資質能力向上研修の両方を関連付けて実施することができた。また、今年度は新型コロナウイルスによる臨時休校期間が 2 ヶ月あったため、密を避けて 4 月中にまとめて研修を実施し、休校期間後は授業確保を図った。

2 内容と方法

- (1) 年度当初や各学期の始業式前後に教職員にアンケートを実施し、教職員が困っていることや必要だと思っていることを把握する。
- (2) 金曜日の 1 時限目を校内研修部会に位置づけ、研修主任を中心にアンケート結果を基に話し合い、必要な研修について立案する。
- (3) 校内研修部会で、立案した研修の細部について協議したり周知したりする。

3 研修の実施

- (1) 研修日程（資質向上研修を抜粋）㊦…全体研修 ㊧…希望研修 太字は CT 教員

日付	研修内容	講師
4 / 1 3 ㊦	アレルギー対応～エピペンの使い方～	養護教諭
4 / 2 1 ㊧	中学校の授業の進め方・テスト作成について	校長
	生徒主体の学級経営について	教頭
	学力差・能力差がある生徒への対応について	研修主任
	道徳の授業展開・教材研究について	前年度道徳研究班の教員
	授業に集中させる教室環境について	CT 教員
5 / 2 7 ㊧	ICT の有効活用②	情報主任
	来年度の教科書の方向性	教頭
8 / 2 1 ㊦	hyper-QU 研修	外部講師
1 0 / 1 2 ㊦	生徒指導について	生徒指導主事
1 2 / 7 ㊦	信頼関係の築き方 基礎編～生徒・保護者への対応～③	SC
1 / 7 ㊦	電子黒板の使い方②	情報主任他
2 / 8 ㊦	新しい評価について	教頭
3 / 2 2 ㊦	ロイロノート・GSE について	研修主任他

(2) 実践内容（丸数字は研修の日程参照）

【①4月21日 メンター研修】

キャリア段階Ⅰ相当や中学校の勤務歴が少ない教員に事前にアンケートをとり、困っていることや必要としていることを集約した。その中から、4つを取り上げ本校の管理職や中堅教員に講師をお願いして研修を行った。

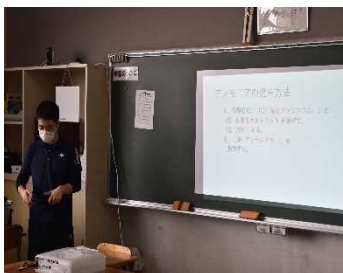
密を避けるため、少人数ずつでの実施となった。人数が少ないことで気軽に話ができ、互いに意見を交わす姿が多く見られた。

CT教員自身も講師となり、授業に集中させるためにどのような教室環境にするとよいか、ユニバーサルデザイン的な考え方について、分散登校が始まる前に確認した。



【②5月27日 ICTの有効活用／1月7日 電子黒板の使い方】

1学期にタブレットとプロジェクターの有効的な使い方、3学期には各教室に設置された電子黒板について、研修部の教員を中心に研修を実施した。タブレット研修については、邑楽町教育研究所ICT研究班研究員を講師として講義を行った。電子黒板の研修では、学年ごとに少人数に分かれて実演を交えながら研修を行った。少人数にしたことで、一人一人が電子黒板に触れる時間が長くなり、さまざまな疑問や質問などが出た。また、「国語の授業なら詩を写すときに使えそう」や「数学だと図形の単元で便利」など、具体的な活用場面を考えた意見交流を行うことができた。



【③12月7日 信頼関係の築き方 基礎編～生徒・保護者への対応～】

事前アンケートに、「信頼関係を築くことが難しいと感じる保護者とどのように接したらよいか」という悩みが書かれていたことから、本校のSCに講師を依頼した。「生徒の気持ちを理解するためにまずは話を聞くこと」の大切さを具体的な事例なども交えながら話をしていただいた。



4 成果と課題

- CT教員は教員経験がまだ浅い。そこで、校内研修部会を機能させたことで、CT教員自身の力だけでなく、組織で相談し合いながら立案することができた。また、若手教師同士が研修主任や管理職の意見を聞きながら協力し合って研修を進めることができた。
- CT教員は、総合的な学習の時間（以下、総合）の主任を兼任しており、研修日程には含まれていない部分で全面的に総合の内容を変更し、組織的に年間指導計画の作成に当たった。
- 12月の教員用端末の導入により、ICT研修に係る資質向上研修の時間確保が難しかった。